

冒険心が飛翔する“100人の戯空間” フィールド  
 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F  
 TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312  
 ウイングフィールド公式サイト URL http://wing-f.main.jp/

第11回 むりやり堺筋線演劇祭 企画シンポジウム

8/7 (水) 7:00 「演劇界を考える 温故知新 —伝統芸能と現代演劇のつながり—」  
 参加費 / 500円

10(土) 6:30 作・演出 / 辻岡しんぺい 初劇  
 11(日) 3:00 「その男、ブラック・ホーク」  
 6:30  
 12(月・祝) 3:00 出演 / 日曜座  
 6:30  
 料金 / 3,000円 (前売・当日共)

「演出家が『空間』を『劇空間』に仕立てる為のワークショップ」

15(木) ファシリテータ / 筒井潤 (dracom)  
 18(日) 10:00 開始 参加費 / 無料  
 応募締切 / 1次締切 7月24日(水) 2次締切 7月31日(水)  
 詳細はウイングフィールド公式サイトをご覧ください。

ウイングフィールド提携公演 第11回 むりやり堺筋線演劇祭参加

23(金) 7:30 大竹野正典没後10年記念公演  
 24(土) 11:30 作 / 大竹野正典 演出 / 中川真一  
 3:30 「海のホタル」  
 7:30  
 25(日) 12:00 出演 / 遊劇舞台二月病  
 4:00  
 料金 / 前売 2,800円 当日 3,300円 学生 2,200円 (要学生証)  
 なかよし割 (3名様) 7,500円 (前売のみ)

ウイングフィールド提携公演 第11回 むりやり堺筋線演劇祭参加

作 / 宮沢賢治 構成・演出 / 高橋菜穂子 旅劇  
 31(土) 2:00 「土神ときつね ふたりのケンジ」  
 7:00 出演 / YONEZAWA GYU OFFICE  
 9/1(日) 2:00  
 料金 / 一般前売 2,800円 一般当日 3,000円  
 U24 前売 1,800円 U24 当日 2,000円  
 高校生以下前売 1,000円 高校生以下当日 1,200円

“若手劇団の登竜門”が待ち望むまだ観ぬ可能性

丸蟲御膳末吉

一出会いは偶然—  
 ウイングカップの存在を知ったのは2016年。Twitterのタイムライン上に表れたのがキッカケだったと記憶している。時間は多少前後するが、その年の6月に大阪へ赴く予定が有り「折角だから地元の演劇を観よう」と観劇したのが『無名劇団』。更に時間は前後し『みんな大好きYouTube』で「面白いお芝居無いか?」と検索してヒットしたのが『演劇集団ゲロリスト』。更に前後し『みんな大好き観劇三昧』で『べろべろガンキョウ女』を観た。全てが面白く衝撃的で其の全てを繋いでいるキーワードが「関西」と「ウイングカップ」だった。

その後「何時の日かウイングカップに」そんな思いを胸に秘め、地元名古屋での日々を送っていた。同年『蛋白質とエニグマ』と云う作品で「第三回名古屋演劇杯」の大賞を頂き、その公演と結果発表の間にも次回作『踊る感星歌謡ショー』の執筆に勤んでいた事を覚えている。

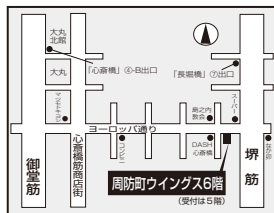
そうして2年越しの思いを胸に“2018年3月8日(木) 20時03分”

「ウイングカップ9参加応募」と題したメールをウイングフィールドへと送った。

始めてウイングフィールドを訪れたのは同月31日(土) 15時。「此処で合ってるよね?」と思いながら劇場の扉をノックし、ウイングフィールドと云う名の宇宙へと飛び込んだ。

一劇空間としての無限の可能性—

スタッフさんに案内されながら廻る劇場内は「遊び幅」に満ち溢れていた。ビルの5階が受付で外階段を上がれば6階が劇場(土足厳禁)。客席は取っ払



えるしハシゴを登れば屋上に繋がっている。謎の用途のエレベーターと床の色。天上の低さと折れ曲がって広がるアクティングエリア… “如何様にでも化ける可能性”は広がりを魅せ“作品と劇空間のマッチング”に繋がって行く。「どうやって遊び尽くそうか」その事だけを考えて写真をパシャパシャ撮っていた。スタッフの皆さんから頂いた「面白い芝居を演って貰う為ならば出来る限りのサポートはさせていただきます」と云う本当に力強く温かい言葉に胸を打たれ、俄然「演ってやるぞ」と誓った3月末日。

一関西小劇団と云う名の小宇宙(コスモ)—

同年9月9日(日) 19時。ウイングカップ恒例の前夜祭が開催された。其々趣向を凝らした“5分程の短編”が公演日時順に次々と上演されて行く。「熱量・精度・意外性」其々が其々の持ち味で攻める。同じ土俵に上がるからには皆ライバルである。が、その時は素直に「面白い。このまま皆を名古屋に呼びたい」そう思った。文字にすると嘘っぽいのが、この時に自身の中では既に上位3団体が決まっていた(名前は書かないが結果皆其々に賞を受賞している)。正直「作品性の統計」だけを見れば名古屋とさほど変わりはない。が、アプローチや技法の特異性にショックを受けた。「ウイングカップに参加をして本当に良かった」と1番に感じたのは賞を頂いた瞬間よりも此の日此の瞬間である。何せ「演劇の面白さと可能性」をダイレクトに感じられて再認識させて貰えたのだから。

一師走の旅劇—

“2018年12月29日(土) 15時”いよいよ団体初となる大阪公演の初日が幕を開ける。語り出せばキリは無いが、文字数制限の為残念ながら此処まで。

一結びに—

まだ観ぬ可能性へ向けてこの言葉を添えて。『ウイングよいとこ一度はおいで』きつと後悔は有りません。

(右脳中島オーボラの本妻 脚本・演出)